広報委員長あいさつ

町民全員が参加する「広報紙」

委員長　菰田（こもだ）　力

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、希望あふれる新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は、金融機関等の大きな倒産もあり、不安を感じられた方も多かったのではないかと思います。

今年は、不安の無い良い年であるようにと念願せざるを得ません。

当町では、皆様方のご協力により、厳しい財政事情ながら、第11次三か年実施計画も概ね順調に進捗しているところでございます。

さて、昨年の「広報ひかり」はいかがだったでしょうか？　町が今どんな事をしているのか、どうしようとしているのか、また、身近でどんな事が起きているのかなど、写真も多く取り入れ、解りやすい言葉でお届けしてまいりましたので、お解りいただけたのではないかと思っております。

毎年、県が行います広報コンクールで、昨年度は、町村の部で奨励賞（第四位）を受賞することができました。これも、ひとえに町民各位のご協力のたまものと感謝申し上げます。

本年も、町の方針、重要施策等、可能な限り掲載できるように努力してまいりますとともに、各地区の広報通信員の皆様方のご協力をいただき、町民全員が参加する「広報ひかり」にして行きたいと存じます。

最後になりますが、本年が幸多い年でありますようにご祈念申し上げまして、新年のあいさつといたします。

今年は寅年

今年は寅（とら）年。虎は干支（えと）の三番目、食肉ネコ科の動物です。ライオンが「アフリカの百獣の王」なら、虎は「アジアの百獣の王」です。ウスリー（ロシアと中国の国境地帯）、中国大陸、朝鮮半島、東南アジアなど、温帯から熱帯地方にかけて広く生息していますが、日本列島には野性の虎はいません。

日本の文献に初めて虎が登場したのは『日本書紀』で、欽明天皇の欽明六年（五四五年）に、百済で虎退治をして、その皮を日本に持ち帰った人がいるということが記されています。生きた虎が日本に来たのは寛平二年（八九〇年）といわれ、その後、江戸時代には、虎は見せ物として江戸・大阪などを回っていたようです。多くの人が虎を見られるようになったのは、動物園が普及するようになってからです。しかし、虎はことわざなどによく登場し昔から親しまれています。

だれでも知っている「虎の子」は、大切なもの秘蔵のものということ。「虎穴（こけつ）に入らずんば虎児を得ず」も、虎の子が貴重なものという意味から危険を冒さなければ（虎の住んでいる穴に入らなければ）成功は得られないということです。

「虎刈り」は、丸刈りがはやらなくなったので最近はあまり見かけません。「虎の巻」は、もともとは兵法の秘伝を記した書物のこと。以前は、学生さんなどが参考書などをこう呼んだものですが、この言葉もはやらなくなりました。

また、虎は強いもの、恐ろしいもののたとえにもよく使われます。「虎視眈眈（たんたん）」「虎の威をかる狐（きつね）」「虎の尾を踏む」「虎は千里往（ゆ）って千里還（かえ）る」「虎は飢えても死肉を食わず」「虎は死して皮を残す」など、枚挙にいとまがありません。

いずれにしても、昨年は明るい話題の少ない年でした。今年は虎のように、威勢よく頑張りたいものです。